



War Cry

6月号

福音版
2024
June
No.2871日常生活の中で
神に気付く

吉田 司



私の長女が七歳の時、石油ストーブに接触して、背中に火傷を負ったことがありました。長女はその夜、風呂から上がり、布団カバーに足を引っかけて、勢いよく転んで石油ストーブにぶつかったのです。そして、格子状の熱線に背中あたり、火傷。彼女は大声で泣きまわりました！ 私たちはすぐに応急処置をするとともに、神様に真剣にお祈りしました。「主よ、今、娘を助けてください。どうぞ主が癒してください。」

その後、車で緊急の外科病院へ連れて行きました。幸いに長女の背中に火傷のあとが残りませんでした。私たち家族は神様に感謝のお祈りをしました。

さて、マタイによる福音書八章には、山上の説教を語り終えたイエス様を待っていた人たちのことが記されています。重い皮膚病を患っている人、中風で家に寝込んで苦しんでいる僕の癒しを切に願うローマの百人隊長、さらに、熱を出して寝込んでいるペトロ（イエス様の弟子）のしゅうとめです。この三人の人物が、イエス様の癒しを必要としていました。

ただここで、ペトロのし

ゅうとめ以外の二人は、共に大変な病気だったのに対して、しゅうとめの病状はそれほど重いように見えません。もちろん、本人は苦しんで大変だったでしょう。またペトロをはじめ家族たちも心配していたに違いありません。でもありふれた日常的な病気だったと思われれます。そして、それぞれに癒されていくプロセスにおいて、ペトロのしゅうとめと他の二人はだいぶ違っていました。

重い皮膚病の人の場合、本人が死に物狂いで病の癒しを懇願しました。百人隊長の僕の病の癒しについては、上官である百人隊長が必死になってとりなしたのです。ところがペトロのしゅうとめに関しては、当の本人を含めて、誰かがイエス様に向かって、癒してほしいと求めたことがひと言も出てきません。

「イエスはペトロの家に行き、そのしゅうとめが熱を出して寝込んでいるのを御覧になった。イエスがその手に触れられると、熱は去り、しゅうとめは起き上がった。イエスをもてなした。」（マタイによる福音書8章14、15節）

このところで、とても大切

だと思ふことは、彼女や周りの人がイエス様にお願ひする前に、イエス様ご自身が、熱を出して寝込んでいる彼女をご覧になって、その苦しみを知っていたという事です。そして、イエス様のほうから進んでその病を癒してくださいだったので

ここで注目したいのは、神様のお働きは、何か特別な、劇的な仕方ではなくて、ごく日常生活のレベルでなされていることです。どんなにでも風邪をひき、熱が出て喉が痛い時もあります。そうしたごく日常生活の出来事の中に、神様はあなたのことを心配し、働いてくださるのです。ごく普通の生活をしている私たち一人ひとりを「ご覧になって」くださるお方なのです。そして、私たちの手に触れてくださり、場合によっては病気を癒してくださいるので

あなたの心の目が開かれ、神様のお取り扱ひに気付くことができるように、お祈りいたします。

「彼はわたしたちの患いを負ひ、わたしたちの病を担った。」（マタイによる福音書8章17節）

（救世軍士官（伝道者））

神様の愛、いのちの意味を受け取って



清瀬病院前で

救世軍清瀬病院チャプレン
野口 恵子さん

(日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド
小岩栄光キリスト教会信徒)



救世軍清瀬病院でチャプレンを務める野口恵子さん。聖書の言葉にふれてクリスチャンになった経験と、病院という場で人々の内面に寄り添う、チャプレンの働きについての証言です。

野のゆりを見なさい

二〇一二年の三月に洗礼を受け、クリスチャンになりました。看護師として働

いていた、三十代の頃です。私は普通の日本人の家庭に生まれ育ち、神社などにも行き、何かあれば神社でもお祓いをしたり、占いなども信じていました。ずっと、

自分ではどうにもならない何かがある、それが怖いなと思っていました。結婚した夫の家族はクリスチャンファミリーで、義理の母からキリスト教の読み物や、読みやすい聖書をいただいていたので、せっかくだからと思いついて読んでみました。私はその頃、すごく心が渴いていて、聖書の

「野のゆりがどうして育つのか、よくわきまえなさい……きょうはあつても、あすは炉に投げ込まれる野の草さえ、神はこれほどに装ってくださるのだから、ましてあなたがたに、よくしてくださらないわけがありませんか」(マタイの福音書6章28、30節)

という言葉を讀んだ時、号泣してしまいました。私は生け花が好きでずっと習っていました。お花のことは大好きで、なんて可愛いんだろうと思っていたけれど、それ以上に、神様は私のことをずっと愛して、育てて養ってくださっていたんだ、とこの御言葉を読んで思っただけです。その先の、

「あなたがたも、自分の子がパンを下さいと言うときに、だれが石を与えてらっしゃる。……とすれば、なおのこと、天におられるあなたがたの父が、どうして、求める者たちに良いものを下さらないことがありませんか」(マタイの福音書7章9、11節)

という言葉も、ああ本当だと思ひ、全部のことが神様からだったんだと思える、そういう経験をしました。

それまで私は自分の過去のことは全部失敗だったと思っていて、朝起きる時は「死んでもいいかもしれない」と思いつつも、そこをがんばって仕事に行けば周りのいろんなことで楽しくなっていて、みんなから元気をもらって帰ってくる、というのを繰り返していました。でもその御言葉を通して、神様の愛を知りました。その時、本当の神様にやっとな出会えた！と強く思ったのを覚えています。探し求めていた私に神様が応えてくださったと思えました。

そして、教会に行きたい、と夫に言ったのですが、夫のほうは嫌だと言いつづけていました。夫は、中学生の時に洗礼を受けて以降ずっと教会を離れていて、結婚した時も教会には行っていませんでした。ところが、義理

の父が足を怪我して教会に行けなくなり、車で送るしかなくなりました。それで、私が行きたいと言いだしてからわりとすぐ、教会に四人で行くようになりました。夫が行かざるを得ない状況を神様がつくってくださったのだと思います。夫も、それ以来欠かさず教会に行き、今では教会での奉仕も喜んでしています。

直ぐな心で生きる

その後、聖書のことを学ぶ中で、神様の大きなご計画の中に人は生かされているということを知りました。私は小学校三年生ぐらいの時に、生きる意味ってなんだろう、生きる意味がないなら死んだほうがいいのかなど思った時がありました。それ以来、落ち込むとその問いに度々襲われていたのですが、神様によって生きる意味が与えられているというのを知ってから、生きる目的が見え、自分がここにいるという肯定感、やっとな受け止めることができるようになりました。いま、好きな聖書の言葉

「私の神。あなたは心をためされる方で、直ぐなことを愛されるのを私は知っています」(歴代誌第一29章17節)

がいつも心にあります。神様は、完璧な心ではなく、「直ぐな」、素直な心を喜ばれる。これはダビデという人の祈りの言葉です。ダビデは人生の中でいろいろ悪い事もしてきたけれど、でも神様に愛され続けていました。私も悪い思いを受け取りやすい者だけれど、そのつと素直にそれを神様の前に明るみに出して、歩ませてくださいたいと思わされます。いつも、「直ぐな心、直ぐな心」と自分に言い聞かせています。



野口家集合 (左奥、白い上着が筆者)

看護師としての歩み

十代の頃、進路を考える中で、母が医療事務をしていたこともあり、病院での仕事というのは選択肢の大きな一つでした。その中でもより人と関わる仕事がしたいという思いから、看護へと導かれました。でも父が反対していたり、自分でも自分のことを肯定できないでいたのも、自分が進んでいる道も、あまり良いとは思えないまま、看護の世界に入ったのです。

でも、就職した虎の門病院の配属先で出会った先輩たちが、すごくかつこ良かったのです。リーダーとして判断したり、使命感をもって働いている先輩たちの姿にふれて、看護ってこういう仕事なんだ、かつこいいな、とだんだん看護というものが好きになっていきました。

看護師として、血液内科―白血病やリンパ腫などを扱う科から始まり、内科を主にいくつかの科を経験しました。患者さんの急変に対応できるよう、心肺蘇生（心肺蘇生）のアドバンスコースのインストラクター資格も取り、

働きました。その間にクリスチャンになって、「スピリチュアルケア」ということに関心の軸が移っていったのです。

スピリチュアルケアの学びへ

虎の門病院での十五年目頃、「ナース・クリスチャン・フェローシップ」という、クリスチャンのナースたちの集まりで、「スピリチュアルケア」というものを知りました。自分がそれまで看護をやってきた中で、病気があっても、死を目の前にしても、麻痺（まひ）が一生このままだという状態でも、元気で生きている方がいることを見ていました。それで、体とか精神ではなく、もっと根底のところの健康が保たれているのが大事なんだという思いをずっともっていたのです。クリスチャンになって、「スピリチュアル」という、目には見えない、感情や知性といった精神活動ともまた違う、人間の根本にある靈性のことを知ったから、この勉強をしなきゃいけない！ と思いました。

ちょうどその頃、上智大学の



大学院にスピリチュアルケアを学ぶ研究科が立ち上がって、そこに入学し、今も学びを続けています。

虎の門病院には十七年勤め、家庭の都合で退職しました。その後、しばらくして二年間ほど、山谷で訪問看護に携わり、多くのことを学ばせていただきました。山谷の人たちは、自分はこの世の中に受け入れられていない、という思いが元になり、自分を大事にすることができなく、「俺なんて医療にかからなくていいんだ」という様子が見えませんでした。訪問時間にも家に行かないでお酒を飲み歩いていたり、糖尿病で足が壊死（えし）して血が流れているのに、包帯もぐしゃぐしゃのまま経過していたり…。中には治療に来てくださる方もいきましたから、つかず離れず、でも一人にはしないような寄り添い方もあるということを知りました。

チャプレンとなって

その後、上智での学びの実習で救世軍ブース記念病院に行ったのが、チャプレンの働きへ導かれるきっかけでした。その時は自分が

チャプレンになるとは全く考えていませんでした。看護が大好きだったので、手放すのは難しいと思っていたのです。新型コロナウイルス感染症の流行中ですが、働きなかつたこともあり、しばらく時間をとって祈りました。また、教会のメッセージを通して、神様が正しい道に導いてくださることを信じて、信仰によって一歩踏み出すという思いを与えられました。そして、祈りの中で励ましと勇気を受けて、救世軍清瀬病院でチャプレンになりました。

なってからも看護師さんの姿を見ると、少し寂しく思う日々が続いていました。看護師は患者さんのところへ行き、血圧を測るとか、看護の働きをし、お話を聞くこともできますが、チャプレンはただそばにいて、患者さんの言葉を聞くので、断られることもありました。けれどある日、緩和病棟の患者さんが、その方のもう最期（さいご）の頃でしたが、「あなたがそこにいてくれるだけで、薬よりも何よりも私の癒しになっているのよ」と言ってくれたんです。その言葉が、本当に神様からの言葉だと思えて、これ

人生の営みに寄り添って

いま、療養病棟とホスピス緩和ケア病棟で、患者さんをお訪ねしてお話を聞いたり、人生の棚卸（たなごし）でもいうようなことのお手伝いをさせていただいています。赦（ゆる）されたいという訴えをお聞きすることもあります。戦後物のない時代にパンを盗んでしまったことの罪悪感をずっと握（にぎ）ってこられた方…。それをもう降ろしたいという思いで、お話しくださいのようです。また、ご家族が、患者さんの最期の時に間に合わなかったと後悔（くわい）なさることがあります。その時、亡くなる直前にチャプレンがお訪ねして、ご家族のお写真を見な

がら一緒に時を過ごしたことをお伝えすると、「人間的な時間をもっていたと思っただけのことがあります。このような時のために遣わされているのかなと思わせていただく言葉でした。私には生きていく意味がある、どんな状況でも、神様は私を必要としてくださっている。私自身がこのことを知り、生きる力を得たように、病のうちに求められる方々にも、「あなたは必要とされている。神様にとって意味のある生なのだ」と、私という器を通して、伝わっていくように願っています。また、「あなたは確かに生きていた。あなたの人生の営みは豊かだった」ということの証人として、チャプレンをさせていただいているのだと思います。



患者さんと

創立者 ウィリアム・ブース 大將 リンドン・パツキンガム (万国本営 英国ロンドン) 日本司令官 スティーブン・モーリス (救世軍本営 東京都千代田区)



世界をみつめて

〈日本〉 ●第61回首都圏イースターのつどい

4月7日(日)午後3時30分から、東京の淀橋教会(ウェスレアン・ホーリネス教団)で、教派を超えた合同のイースター礼拝がおこなわれました。救世軍からはジャパン・スタッフ・バンドとタンバリン隊が参加し、賛美の音楽を奏でました。古波津真琴牧師(チャーチ・オブ・ゴッド川崎キリスト教会)が「あなたの闇がどのようなものかとしても」と題し、聖書からメッセージをしました。333人の会衆が集い、イースターの喜びを共にしました。



バンドの演奏とタンバリンによる賛美

●能登半島地震被災地への支援活動— 第三回給食(炊き出し)支援

救世軍は「能登ヘルプ」(能登地震キリスト災害支援会)との連携のもと、第三回となる給食支援を4月17日(水)におこないました。石川県能登町の公立宇出津総合病院と升谷医院で、エッセンシャルワーカーの方々へ、焼肉弁当、温かいコーヒー、ドーナツ約200食を提供しました。地震発生から4カ月が経とうとする中、いまだ水道が復旧していない地域もあります。これからも地



域のニーズに応じて支援をおこなう予定です。



〈万国本営〉救世軍の医療事業

世界保健機関(WHO)憲章の前文の冒頭には、「人種、宗教、政治信条や経済的・社会的条件によって差別されることなく、最高水準の健康に恵まれることは、あらゆる人々にとっての基本的な人権のひとつです」と記されています。しかし今なお世界では、多くの人が基本的な保健医療サービスを受けられず、また、毎年多くの世帯が医療費の自己負担が原因で貧困に陥っているとのことです。

救世軍は世界中で24の病院と132の医療施設を運営しています。それぞれの国の状況と地域のニーズに応じて医療サービスの内容は多様ですが、万国本営の国際開発部は、各地の救世軍と連携し、医療格差を生み出す原因となる貧困や不正に立ち向かい、誰もが質の高い医療サービスを受けることができるよう、働きを進めています。

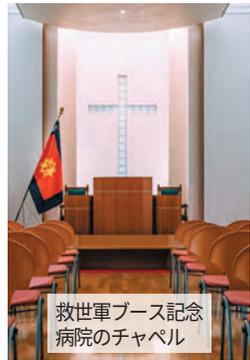


ボリビアの救世軍では移動診療を実施している

救世軍とは? What is The Salvation Army? 心は神に 手は人に Heart to God, Hand to Man

救世軍は、世界134の国で活動するプロテスタントのキリスト教会で、国際本部は英国ロンドンにあります。1865年、英国のメソジスト教会の牧師ウィリアム・ブースと妻カサリンによって始められ、東ロンドンのスラム街で困難な生活状況にある人々に助けの手を伸べつつ、神様の愛を伝えてきました。

日本では1895(明治28)年に英国から士官(伝道者)が来日して救世軍の活動が始まり、小隊(教会にあたる)での伝道と、廃娼運動、失業者対策、病院や結核療養所の設立など、様々な社会事業や医療の働きを進めてきました。現在、救世軍ブース記念病院(東京・杉並区)と救世軍清瀬病院(東京・清瀬市)は、両病院ともキリストの愛の精神を模範とし、患者様とご家族に寄り添うことを理念に掲げ、日々の働きに取り組んでいます。清瀬病院では、今年2月に「介護医療院シャロン」を開設しました。詳細については、両病院のホームページをご覧ください。



救世軍ブース記念病院のチャペル

☆『キッズ・ゴスペル』コーナー☆ (子ども向け紙面) 左のQRコードから、今月の『キッズ・ゴスペル』を閲覧できます! 聖書のお話も動画で見られます。ぜひ、ご覧ください!

救世軍公報 ときのこえ 発行日 福音版/毎月1日、広報版/奇数月15日 定価 福音版/1部40円、広報版/1部100円 (税込) クリスマス特集号(12月1日号)/1部100円 振替 00180-5-4400 発行兼 救世軍 印刷人 代表者 スティーブン・モーリス 編集人 山谷真 発行所 救世軍本営 https://www.salvationarmy.or.jp 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-17 電話 03-3237-0881(代表) Mail jpn.editorial@jpn.salvationarmy.org 印刷所 ピーアンドエス

聖書は新共同訳を使用しています ©共同訳聖書実行委員会 ©日本聖書協会 救世軍は、旧統一協会、エホバの証人、モルモン教ではありません。これらの問題でお悩みの方は、下記救世軍にご相談ください。 【取り扱い支部】 救世軍への連絡をご希望の方は、以下の中から該当する項目及び住所氏名をご記入の上、救世軍本営(左記)もしくは、上記救世軍にご連絡ください。 ・私の近くの救世軍を紹介してください。 ・キリスト教についてもっと知りたいです。 ・『ときのこえ』の購読を申し込みます。 ・相談を希望します。